

令和8年度第6回青森県特別支援学校総合スポーツ大会
ポスター原画及びスローガン受賞作品

【選考委員】

選考委員長

岩井 康頼 氏

青森県障害者スポーツ協会理事長

高杉 勝彦 氏

青森県特別支援学校校長会会長

佐藤 忠全 氏

青森県特別支援学校スポーツ連盟会長

木村 琢生 氏

【ポスター原画】

最優秀賞

『 もえあがるフライングディスク！！ 』

弘前大学教育学部附属特別支援学校
高等部1年 工藤 心雪



<作品に込めた思い>

特スポに向けての思いを描きました。

◆選評

「フライングディスク」はアキュラシーゴールをめがけコントロールの正確さを競う競技です。

心雪さんの描いたキリッとした顔の表情とパフォーマンス。表情に「スリル」と「勢い」を感じさせ、ディスクを投げた瞬間の緊張感が、体全体から伝わってきます。ダイナミックですばらしい絵だと思います。また、画面全体に浮かぶ「気」もしくは「風船」のようなものが「発光」し、レインボーカラー（赤、青、黄色、紫色等）色が鮮やかに彩っています。デザイナーだったら是非、ポスターにして見たいと思わせる、絵の一つだと思います。特別支援学校総合スポーツ大会のポスターとしての、魅力を十二分に表現されている絵だと思います。審査員の皆さん全員一致で、最優秀作品に選ばれました。

（岩井 康頼 氏）

優秀賞

『優勝を目指す！』

青森県立青森第二高等養護学校
高等部2年 穎川 和輝



<作品に込めた思い>

自分が敵に取られないようにしながらシュートをしている場面です。

◆選評

画面いっぱいに三人の選手が描かれています。

赤のユニホーム選手が攻め、青のユニホーム選手が守る場面、緊迫感の溢れる試合の一瞬を見事に描ききっています。三人三様の役割とポジションを鋭く捉え、バスケットボールの面白さを知っている人の絵だと思います。画面構成がリズムカルで「動的な表現」に迫力があり、すばらしい絵です。体育館の観客の声援と熱気まで、伝わってくるような白熱した緊張感が魅力です。穎川君の「バスケットが大好きなんだ」ということまで表現されているように思います。次点にはなりましたが、この絵もスポーツ大会のポスターにふさわしい絵だと思います。

(岩井 康頼 氏)

優秀賞

『落ちるまで追いかける！！』

青森県立青森第二高等養護学校
高等部2年 新岡 聖矢



<作品に込めた思い>

落とさなければゲームは続くという思いで描きました。

◆選評

タイトルの「落ちるまで追いかける！」はボールが地に着く前のボレー（手の甲）で打ち返す瞬間。天地がひっくり返ったようなボレーに、人間の限界ギリギリの場面とゲームの緊張感が漂っています。また、画面の対角線上に飛び込んだ身体能力の機敏さに加えてあたかも指先にまで神経の感覚が通っているかのようです。溢れんばかりのバレーボールの醍醐味を感じさせ、スポーツの魅力とインパクトな臨場感があります。人体の配色にも新岡 聖矢君の創意工夫が感じられ、素晴らしい絵だと思います。次点にはなりましたが、この絵もスポーツ大会のポスターにしてもおもしろい絵だと思いました。

(岩井 康頼 氏)

審査委員特別賞

『 たくさんの思い出を胸に 』

青森県立森田養護学校
高等部生徒共同制作



<作品に込めた思い>

地域に関する缶バッジ制作を経験した私たちは、「特スポを缶バッジの題材にしたら、どんなデザインになるだろう」と、各自種目を選択し、試行錯誤を重ねてデザインしました。各競技の特徴や視点を変えて見えた風景、歓声や緊張感をイメージしながらモチーフとし、最後には全員の想いを一つにしてポスターのデザインとしました。

◆選評

缶バッジでのポスター応募は初めての試みです。新鮮な驚きでした。審査員もびっくりし、審査会場がちょっと華やかな気分になりました。審査員も覗き込んで審査しました。缶バッジデザイン制作では、12人の想い想いのスポーツ場面、バレーがあったり、サッカーがあったり。皆工夫をこらした丸い缶バッジに見入りながら、「ポスターにするにはどうしたらいいのか？」なども話し合い、今回は結局全員一致で「審査員特別賞」にすることに決定しました。丸い缶バッジでの表現には、審査員一同、「可能性と魅力」を感じた次第です。例えば、画面が7つに分割され7場面がデザインされたり、意味不明でも「それはそれで面白い缶バッジ」の可能性を考えさせて下さいました。制作に関係する先生方には感謝しています。ありがとうございました。

(岩井 康頼 氏)

【スローガン】

最優秀賞

『 思いよ届け 希望をのせて ～青春の輝き～ 』

青森県立七戸養護学校
高等部1年 古里 浩志

＜作品に込めた思い＞

フライングディスクを投げるとき、「入れ！」という思いをのせて競技に参加しました。それは、青春の1ページとなりました。

◆選評

フライングディスクを投げるとき「入れ！」という、古里さんの真剣で一生懸命な気持ちが伝わってきました。さらには、希望を乗せて飛ばしたフライングディスクが的に入った瞬間のうれしさが「青春の輝き」という言葉に表されていると感じました。他の種目においても、このスローガンを通じて、「蹴る、投げる、打つ、走る、飛ぶ」といった一つ一つの瞬間に自分の思いや仲間との友情を乗せて、参加するみなさんの瞳が輝ける大会になるよう願っています。
(佐藤 忠全 氏)

優秀賞

『 ～駆けろ未来～希望に向かって突き進め！～ 』

青森県立八戸高等支援学校
高等部2年 寺下 小春

＜作品に込めた思い＞

希望を持って未来まで進んで欲しいと思ったため。

◆選評

参加する選手が、力強く、前を見て、必死に走る姿が目には浮かびました。そして、一生懸命に駆け抜けた先に、自分や仲間たちの明るい未来が待っているという、ポジティブな気持ちにさせてくれる表現だと感じました。一人一人が前向きに競技に参加することで、大会が盛り上がることを大いに期待しています。

(佐藤 忠全 氏)

優秀賞

『 蹴って投げて走って飛ばせ！特スポの流儀！ 』

青森県立八戸高等支援学校
高等部2年 上平 怜

＜作品に込めた思い＞

どの競技でも全力で取り組むという思いで書きました。

◆選評

「特スポの流儀！」という表現が新鮮でした。特スポが目指すところの「流儀」は、日々の練習によって選手が身に付けた「蹴り方や投げ方、走り方、飛ばし方」を貫いて、全力で競い合うことにあると思います。そして、参加し、応援する一人一人の熱い思いにより一体感が生まれ、その姿は観る人に感動を与えます。そのことがよく伝わるスローガンでした。

（佐藤 忠全 氏）